

杉戸町々昔拾遺録

温古知新
杉戸の歴史を
語り話す
第29回

古墳時代の土師器について2

今回は、土師器が使い道ごとに多くの形を生んだことを述べました。今回はそのなかから、日々の暮らしを支えた「甕」と「坏」を取り上げます。この二つの器は、古墳時代の半ばに竪穴住居に「かまど」が据えられたことで、そつて姿を変えました。

甕は、煮炊きのための器です。もとは胴が短く丸みを帯びていましたが、時代が下るにつれて胴が縦に伸び、細長い姿へと移つてゆきました。この変化は、住居の壁ぎわに造り付けのかまどが設えられるようになったことと深く関わりと考えられています。かまどが日本に伝わるのは四世紀末から五世紀の初め、朝鮮半島を経てのことでした。床にじかに切られていた炉と違い、かまどは壁ぎわに囲われ、住まいの一点に定まります。蒸し器である「甑」や、細長い甕も、これとひとそろいの技術として海を渡つてきました。かまどに囲われた火は熱を逃がさず、煙を屋外へ導き、長く保たれます。その炎は器の胴を撫でるように立ちのぼるため、側面で熱を受ける胴長の姿が理にかなつていたと説かれています。

甕で煮られたのは、主要な食料であつた米や雑穀でした。そこに甑が加つたことで「蒸す」という新たな調理が生まれ、食卓の幅は目に見えて広がりました。

いっぽう坏は、いまのお椀にあたる食べるための器です。古墳時代の後半になると、集落の跡から出土する土器のなかで、坏は数のうえで群を抜きます。時代や地域により実にさまざまな形が作られ、飯が銘々の器に盛られて食べられた情景をこの出土量は静かに裏づけています。ただし、坏の増加は便利さゆえの帰結ではなく、誰がどの器で食べるかという序列の芽生えでもあり、やがて律令の世に整えられてゆく食膳の作法へとつながるのではないのでしょうか。

(社会教育課 町史・文化財担当編)



わが家のアイドル



掲載された方には**特製カード**をプレゼント！
皆さんのステキな1枚をお待ちしています！

詳しくは
こちら▶



こちらから
簡単応募！▶



なつやま りた
中山 璃汰
ちゃん

令和8年5月6日生

髪の毛ふさふさ
BIG BABY !!



なつみ かいせい
夏見 楓惺
ちゃん

令和6年8月28日生

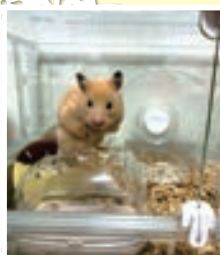
お外で遊ぶのが
大好きな
男の子!!



いとう
伊藤 とんとん
ちゃん

令和7年5月27日生

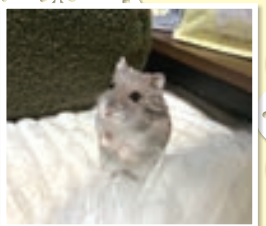
大人しい
おっとりした
男の子です！



いとう
伊藤 まめ太
ちゃん

令和6年12月17日生

活発な
男の子です！



いとう
伊藤 マロニー
ちゃん

令和7年5月29日生

元気で活発な
女の子です！



いわた すず
ちゃん

令和4年9月10日生

お散歩、ドライブ
大好きな
すずちゃん



※大好評につき現在多くのご応募をいただいております。

掲載は受付順となりますので、応募から掲載までお時間がかかる場合があります。ご了承ください。

【世帯と人口】9月1日現在 (前月比)

総人口 42,956人 (-15) 世帯数 20,546世帯 (+10)

男 21,410人 (-19) 女 21,546人 (+4)



杉戸町
ホームページ



メール配信
「すぎめー」



広報スマホ版
マチイロ



杉戸町
公式LINE



杉戸町
公式X



杉戸町
公式Instagram